

具象と抽象の はざま



三岸節子「夜」1970

題字 中川幸夫

はざま 展

「具象と抽象のはざま」展 女子美アートミュージアム収蔵作品から
同時特別公開 大久保婦久子 寄贈作品展

2003(平成15)年4月2日(水)～5月18日(日)

主催/女子美術大学 女子美アートミュージアム

開館時間/午前10時～午後5時(入館は4時30分まで) 休館日/火曜日

入館料/無料

JAM
JOSHIBI ART MUSEUM

女子美アートミュージアム

神奈川県相模原市麻溝台1900 女子美術大学10号館1階

TEL 042-778-6801

小田急相模大野駅から神奈川中央交通バス 女子美術大学行終点下車(約20分)

「具象と抽象のはざま」展 女子美アートミュージアム収蔵作品から

同時特別公開 大久保婦久子 寄贈作品展

2003(平成15)年4月2日(水)～5月18日(日)



林 敬二 [濛々・アイボリーブラック] 1995



溝田 コトエ 「根なし草 (1) Deracine1」 1986



月館れい「黒い果実のある」1998

あなたはどんな絵が好きですか？

20年前パリで客死した抽象作家ポール・藤野は次のように書き残しています。『「いかに人間が、愛し合って生きていくか」これが私の最大のテーマだ。具象でそれを描いてみると、人間のほんの一部分の愛しか表現できないが、抽象的に掘り下げていくと、それがもっと大きな意味で解決できると確信した。』

フランス語では、現実の形が描かれている作品をフィギュラティヴ、具体的な形象を描かない作品をアブストレと明確に区別をしています。日本では、戦前は抽象作品を展覧会に出品しても落選だったが、戦後一転して抽象作品を多く見かけるようになりました。呼応するように、それまでの写実に代わって具象という言葉も定着します。そのどちらにも組み込まない作品には、半具象、半抽象、或いは非具象という言い方がされました。

本展では、日本画と版画も合わせ、確かに実際の花や人物や鳥が描かれているけれども現実の世界では決してない、描かれている物を手がかりに作家の世界を受け止め味わえるような、そうした所蔵作品を選び展覧します。女子美アートミュージアム初公開となる作品ばかりです。改めて、具象・抽象とは何か、そして具象でもなく、抽象でもない、作家が創造する世界について考えてみたいと思います。

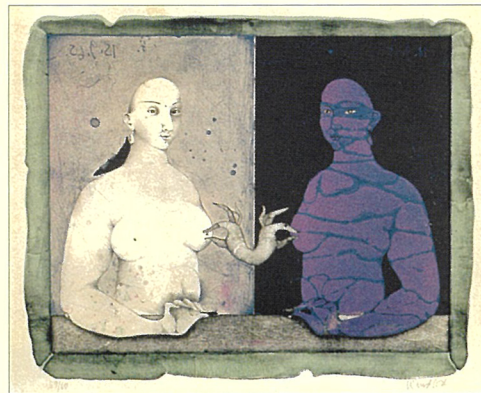
「私の作品は閃きを与えるものであって限定するものではない」ロダンの言葉です。

同時開催として、大久保婦久子の寄贈作品を展覧します。

大久保は女子美術師範科洋画部を昭和14年に卒業後、皮革工芸の道に進み、皮革芸術という新たな領域を拓きました。平成12年に文化勲章を受賞しています。



「須恵器」1991



ポール・ウンダリッヒ「BOSOMFRIENDS II」(心の友)1965



田村文雄「黒の幻影」1989



「ノモン」1975

大久保婦久子



馬場 章 「A corner of the garden XXVI」 1997



小作青史「明暗」1966

主催／女子美術大学 女子美アートミュージアム
開館時間／午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)
休館日／火曜日
入館料／無料

JAM
JOSHIBI ART MUSEUM

女子美アートミュージアム
神奈川県相模原市麻溝台1900 女子美術大学10号館1階
TEL 042-778-6801 直通
小田急相模大野駅から神奈川中央交通バス 女子美術大学行終点下車(約20分)